

水産物等の放射性物質 モニタリング調査

- ・緊急時モニタリング結果
- ・環境放射能モニタリング結果

福島県水産試験場
水野拓治

調査概要

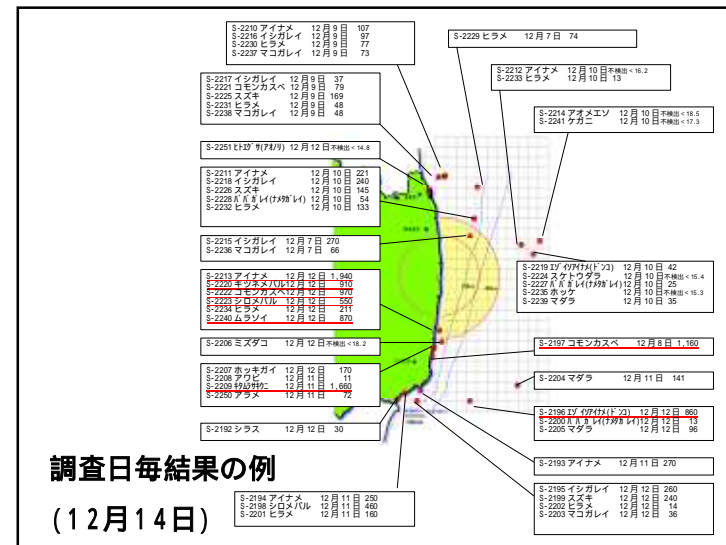
魚介類

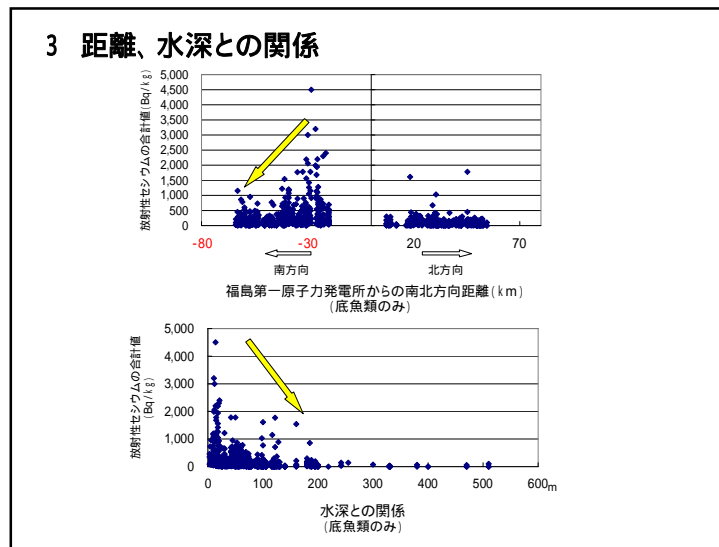
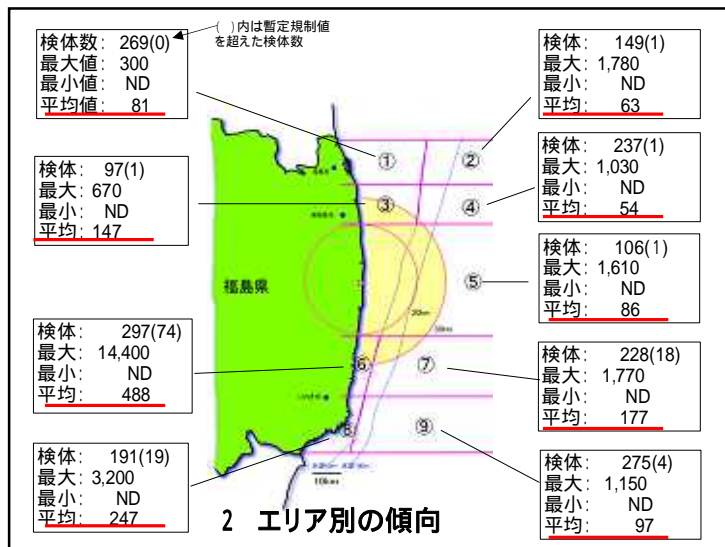
採 捕： 漁業者、水試調査船
海 域： 相双、いわき海域
頻 度： 各海域週1回
前処理： 水産試験場
分 析： 農業総合センター

結 果

1 概 要 (12月14日現在)

海 域	魚種数	検体数	規制値超えた数
相双海域	108種類	959	24
いわき海域	105種類	890	95
合計	135種類	1,849	119





4 魚種別傾向

(1) 暫定規制値 (500 Bq/kg) を超えたもの

種類	最大値	最小値	平均値	検査回数	規制値超
魚					
コモンカスベ	1,560	51	399	96	30
アイナメ	3,000	ND	348	101	16
シロメバル	3,200	36	770	25	10
エソイソアイナメ(ドンコ)	1,770	ND	251	45	7
イシガレイ	1,220	25	250	59	6
コウナゴ	14,400	320	3,486	11	6
ヒラメ	4,500	ND	186	161	5
ウスメバル	950	70	400	12	4
シラス	850	ND	103	59	4
マコガレイ	550	ND	165	91	4
クロソイ	2,190	185	855	5	2
ババガレイ(ナメタガレイ)	1,140	ND	115	69	2
キツネメバル	910	114	438	3	1
スズキ	670	46	168	26	1
ムラソイ	870	142	402	3	1
その他					
キタムラサキウニ	1,660	42	515	20	7
アラメ	970	43	405	18	6
ホッキガイ	940	41	270	29	4
ムラサキガイ	650	30	271	4	1
ヒジキ	1,100	110	605	2	1
ワカメ	1,200	41	284	6	1

ND: 検出限界未満

(2) 最大値が500 ~ 100 Bq/kg (主なもの)

種類	最大値	最小値	平均値	検査回数	規制値超
魚					
メイタガレイ	470	8	97	18	
マガレイ	420	ND	102	61	
イカナゴ	400	82	173	11	
キアンコウ	400	ND	68	27	
ニベ	390	68	227	23	
マアジ	270	ND	60	41	
マダラ	300	11	115	19	
マサバ	186	ND	71	9	
アオメエソ(メヒカリ)	184	ND	83	7	
マアナゴ	176	ND	49	40	
カタクチイワシ	144	8	46	9	
その他					
アワビ	480	11	142	18	
ヒラツメガニ	360	ND	70	15	
ミスダコ	360	ND	28	25	

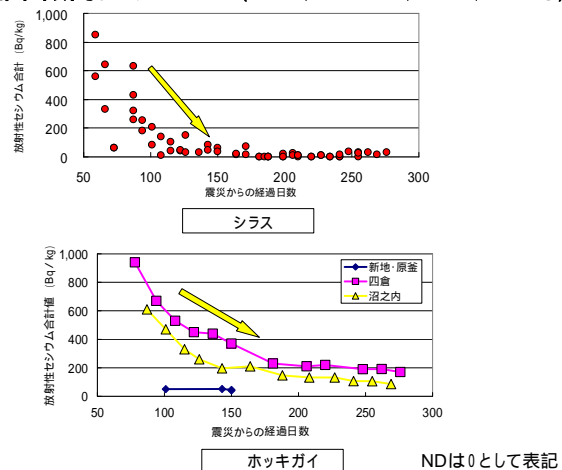
ND: 検出限界未満

(3) 最大値が100Bq/kg以下 (主なもの)

種類	最大値	最小値	平均値	検査回数	規制値超
魚類	イシカワシラウオ	94	67	81	2
	チダイ	91	ND	26	26
	ヤナギムシガレイ	88	ND	26	33
	ナガレメイタガレイ	80	ND	36	12
	アカガレイ	79	ND	27	5
	シログチ	79	12	48	12
	ゴマサバ	68	ND	39	8
	ミギガレイ(ニクモチ)	31	ND	9	26
	カツオ	ND			1
	キチジ	ND			1
サンマ	ND			1	
シロザケ	ND			12	
その他	アサリ	96	96	96	1
	シンドウイカ	82	ND	14	9
	スルメイカ(マイカ)	49	ND	3	18
	ヤナギダコ	40	ND	5	20
	オキナマコ	34	ND	7	5
	マナマコ	29	ND	4	11
	マダコ	27	ND	3	15
他	イイダコ	ND			1
	ヤリイカ	ND			6
	ケガニ	ND			4
	ツブ類	ND			1
	エソバラモドキ	ND			3
	シライトマキバイ	ND			2
	チヂミエソバラ	ND			1
	ナガバイ	ND			1
	ネジヌキバイ	ND			1
	ヒメエソバラ	ND			1
ヒトエグサ(アオリ)(養殖)	ND			1	

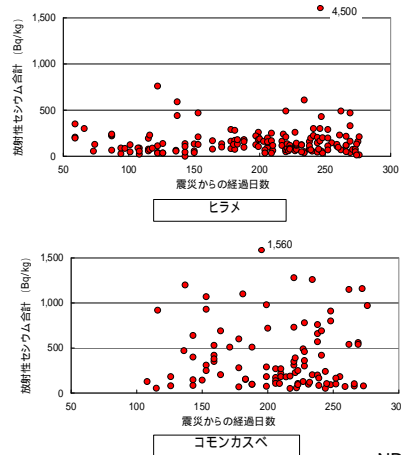
ND: 検出限界未満

(4) 低下傾向にあるもの (シラス、ホッキガイ、アワビ、アラメ等)



NDは0として表記

(5) 低下傾向がみられないもの(例)



NDは0として表記

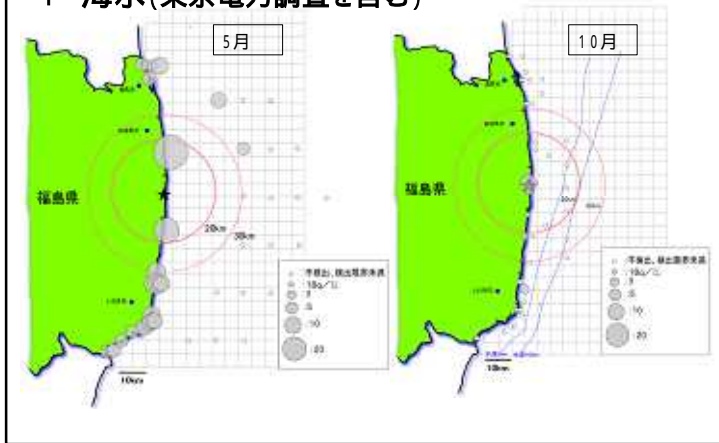
調査概要

海水・海底土壌

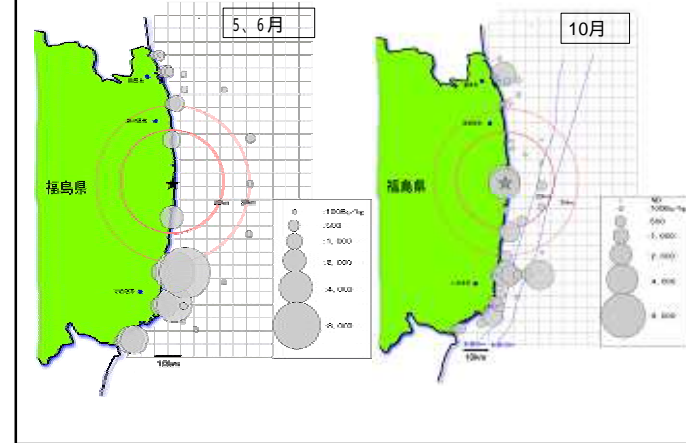
- 採取: 水試調査船等
- 海域: 各漁港、磯根漁場、浅海域
- 頻度: 各月1回
- 前処理: 水産試験場
- 分析: 原子力センター

結果

1 海水(東京電力調査を含む)



2 - 1 海底土壌(東京電力調査を含む)



2 - 2 海底土壌

(四倉定線調査)

単位: Bq / 乾泥kg

離岸距離 水深	約 0.5km 7m	約 1.2km 10m	約 2.6km 20m	約 3.7km 30m	約 6.5km 50m	約 10km 75m	約 13.6km 100m	約 20.2km 125m
5月26日	1,503	6,003	9,271	-	-	-	-	-
7月14日	815	1,527	2,386	462	663	347	183	ND
7月26日	124	1,586	905	-	-	-	-	-
8月23日	625	933	992	1,227	1,734	851	235	306
9月12日	1,142	687	943	8,189	679	470	272	136
10月3日	88	804	664	2,916	1,593	395	647	3,571

まとめ

9カ月経過した現在も放射能濃度が低下しない魚種があり、漁業が再開出来ない。

海底土の放射性物質は広く拡散しつつある。

(海底土の放射性物質が生物に与える影響は明らかでないが)

福島水試の課題

★放射性物質の海や海洋生物への影響を明らかにし、その傾向を把握する。

★漁業が再開した際には、科学的データをもって「**福島**の魚は安全だ」ということを消費者に訴え、風評被害の低減に努める。